

式辞

今年は、ひとしお厳しかった冬の寒さとは裏腹に、季節の変わり目も劇的であり、一足飛びに暖かくなるとともに桜の咲き方もこのときとばかり一気に咲き誇りました。高月台の桜も、4月の声を聞く前に一気に花を咲かせ、見る間に雲のごとく花びらをなびかせ、風の中に花吹雪となっております。

本日ここに、本校野球部が甲子園に初めて出場した昭和38年当時、エースで活躍された青木稔県会議員を始め、数多くの方々を来賓としてお迎えしつつ、本校平成30年度の入学式を挙げていきますことは、誠にうれしい限りであります。

ただいま入学を許可した入学生の皆さん、入学おめでとう。本校の入学生は、かつて、五百名を超える時代もありましたが、今年度は二百八十名の新進気鋭の若者を迎えることとなりました。

岩手県出身の宮沢賢治に、「生徒諸君に寄せる」という作品があります。ここに、少し紹介します。

生徒諸君

諸君はこの颯爽たる諸君の未来圏から吹いて来る透明な清潔な風を感じないか
それは一つの送られた光線であり、決せられた南の風である
諸君はこの時代に強ひられ率ゐられて奴隷のように忍従することを欲するか（中略）
むしろ諸君よさらに新たな正しい時代をつくれ

諸君よ 紺いろの地平線が膨らみ高まるときに諸君はその中に没することを欲するか
実に諸君はこの地平線に於けるあらゆる形の山嶽でなければならぬ
宇宙は絶えずわれらによって変化する
誰が誰よりどうだとか誰の仕事がどうしたとかそんなことを言っているひまがあるか

新たな詩人よ

雲から光から嵐から透明なエネルギーを得て人と地球によるべき形を暗示せよ
新しい時代のコペルニクスよ
あまりに重苦しい重力の法則からこの銀河系統を解き放て（中略）
新たな時代のマルクスよ
これらの盲目的衝動から動く世界を素晴らしく美しい構成に変えよ
新しい時代のダーウキンよ
さらに東洋風静観のチャレンジャーに載って銀河系空間の外にも至り
透明に深く正しい地史と増訂された生物学をわれらに示せ（中略）

あらゆる自然の力を用い盡すことから一歩進んで
諸君は新たな自然を形成するのに努めねばならぬ
ああ諸君はいま
この颯爽たる諸君の未来圏から吹いて来る透明な風を感じないか

この詩の中からわき出る尽きることのないエネルギーは、いままさにここにいる新入生の心を揺り起こすことでしょう。目の前の一人一人の新入生から、次なる新たな詩人やコペルニクスやマルクスやダーウキンが育つのです。その根柢は、混迷と混乱と絶望と諦念の彼方から、決して焦らず慌てずあきらめず、明日を信じて進んできた七年の月日と、新

しき正しい時代をつくるために、前を向いて進む日々を私たちとともに君たちが持つからであります。

全世界の人々が経験しなかったことを私たちは経験し、私たちは学んできました。

人間は完全なものではなく、必ず間違ふことがあり、その間違いに気づき悩み、苦しみに傷つくこともあるということ。

しかし、その中から、誤りを正し、間違いを認め、新しい希望の種をまき、そのことから決して逃げることなく、前を向いて、苦しみや悲しみの中から希望や喜びを見いだすこともできるのではないかということ。

私たちは、自分で自分を決定し、間違ふことがあるが、自分で自分を決定する力を持つからこそ、そこから立ち直る力を持つことができると思います。

新入生の皆さん。この学び舎の三年間を、日々、新たな問いを見いだす三年間にしてください。いつもわからないことをわかろうとしつつ、自分から積極的に学ぶことは、アクティブラーナーとして、地域の課題、世代の課題、世界の課題を我が物とすることです。そして、解決策が簡単には見いだせない問いを自分に引き寄せながら、共に学ぶ人たちといかにつながることができるかを考え、様々な人々の随伴者として進みつつも、想像力を駆使しながら、新たな正しい時代の先導者となっていきたい。そのことが、まさしく進路を開拓する力ともなり、未来を開拓する力となるはずです。

新入生の皆さん。これから校歌が披露されます。その二番の後半にある歌詞を見てください。「努め励みて我等弛まじ。」とあります。私たちは努力を怠らず学間に励み、決して緩んだり油断したり勢いを弱まらせることはしないのだ。という強い意志があります。そこには、高い志を持って事に当たる磐城高校の心が、存在します。この心こそ、我等のものであります。なぜなら、校歌のこの一節により、私たちは、決して一人ではなく、三万六千を超える同窓生と見事につながるのであります。新入生の皆さん、君たちは、この学び舎で学ぶことから、永遠に磐城高校集団の一員になるのです。

本日のこの感激を胸に秘め、雲のようにわき上がる桜の姿を目に焼き付けつつ、一人一人が、一日一日を大切に、今年の桜のように、咲くときには、一気に咲き誇る本物の磐城高校生になってほしいと考えます。

保護者の皆さん。本日は誠におめでとうございます。這えば立て、立てば歩めの親心と言われますが、本日まで様々な事柄を乗り越えて、お子様の高等学校入学式を迎えられる喜びは、ひとしおのものとお推察いたします。

一方、子どもたちが多感な時期を迎え、高校生活の3年間は、新たな悩みや苦労が生まれる時期であるとも想像できます。私たち教職員は、子どもたちが自己実現できるよう、全力を尽くして参りますが、子どもたちの健全な成長と豊かな人格の育成には、学校と家庭の連携が不可欠であります。どうか学校の指導方針をご理解いただき、ご支援とご協力を賜りたくお願いいたします。

結びに、新入生の皆さんが明るく充実した学校生活を送り、やがては地域、時代、世界を支える人材として大きく成長するよう心から祈念しまして、式辞といたします。

平成30年4月9日

福島県立磐城高等学校長 阿部武彦